

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2015年12月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第570号

暗きに希望の光をと祈りつつのクリスマス。特に深く覚えているのは、中東からヨーロッパへと流入し続けている数多くの難民のことだ。

フランスでの同時テロの影響もあり、ヨーロッパ各国の受け入れ態勢にさまざまに変化が生じていると聞く。

難民たちの漂着、通過や受け入れなどを巡り、心痛む事件も起こった。九月にはトルコの海岸に打ち上げられた難民の子どもの水死体写真が世界に衝撃を与え、また同月、ハンガリーで極右のテレビ局の女性カメラマンが、その地を通過していく難民の子に足をかけ、冷酷に転ばすという映像が大きな話題となった。

同時期、積極的な受け入れを表明したドイツでは、小さな女の子が「このぬいぐるみを渡す」のだと、駅で難民たちの到着を心待ちにしているという映像もテレビに：

受け入れに消極的な我が国のあり方を含めて、さまざまに考えさせられている。

駅で待つ女の子の姿に触れ、ある話を思い起こした。

アメリカの田舎村での降誕

劇における出来事。その村では、毎年、各世代交代で劇を演じており、ある年、子どもたちが担当に。役の割り振りでは、まずマリア・ヨセフが決まり、天使、博士、羊飼いや等々が次々と決定。ところが、後になってひとりの男の子に役が当たっていないと判明。世話役たちは台本に宿屋の主人役を書き加えて彼へ。

「ダメだ…がない！」を超え

関東運営委員

古賀 博



その子はおとなしくて目立たない、障がいを負った男の子だったという。

普段はうまく声も発せない男の子だが、「ダメだ、部屋はない！」と大声で言い、冷酷に馬小屋を指さす練習を、世話役の助けを受けてひたすら続けた。

上演当日、町外れの宿屋へとやっとの思いで辿りつくヨ

フ。彼らを見つめていた男の子の目にはみるみる涙があふれ、二人に駆け寄り、「待って、行かないで！ボクの家に来て！」と、すがりついて必死に引き留めたとのこと。

進行は滅茶苦茶になっただけだったが、これほどに感動を呼んだ降誕劇は後にも先にもなかったという（『涙のち晴れ』いのちのことば社）。

ローマ帝国の圧政下、難民

同様であったであろう若きヨセフと身重のマリア。ベツレヘムへの旅だけではなく、ヘロデによる幼児虐殺を避けるエジプトへの逃避行をも含め、実に苛酷な旅の連続を余儀なくされたに違いない。

こうした歩みの途中、洞窟などに設けられていたという暗く冷たい家畜小屋にて、餌桶に産み落とされた赤子イエス。そんなクリスマススの原風景を、今日、私たちはどこに、何に重ね見るのか。

配慮や助けを求めると人々に前に、「ダメだ、部屋はない！」、時間がない、余裕がない、思いがない…等々を理由に、彼らを拒絶したことがなかっただろうか。引き留めるところか、何らの痛みも感じず、冷たい視線で見送らなかつたらどうか、そんなことを思わされている。

愛に冷え、関係性に欠けを持つこの私のところにも、主イエスは降っておいでになる。感謝しつつ、この世と自らに巣くう深い闇をしっかりと見つけ、そこに確かな光を新たに迎え、御旨にかなう方向へ歩み出したい。

(日本基督教団早稲田教会牧師)

関東活動センター

●2015年度 関東フォーラム 宗教対話III

「これでいいのか日本のキリスト教」第2回

「学生YMCAのいまから見えてくること」

日本YMCA同盟 学生YMCA担当 森 小百合さん

2015年11月7日(土)

会場 早稲田教会ロビー

共催：早稲田奉仕園



「これでいいのか日本のキリスト教」シリーズ第2回は、11月7日(土)学生YMCA(以下学Y)のスタッフである森さんが学Yのここ数年の経験からお話をされた。「なぜ若い人が教会へ来ないのか」という問いのもと、まずYMCAの起源と現状が説明された。1844年産業革命の中で困窮していた子どもや若者の現状に、G・ウィリアムスなど教会青年がロンドン

で行動を起こし、今日では世界119の国と地域でおよそ5800万人の会員を抱える大組織となった。日本では都市YMCAが1880年に東京YMCAが生まれ、大学や学生寮を拠点とする学Yは、1888年に東京大学YMCAから始まった。学Yは現在、10大学が学生寮24大学が学内サークルの形で活動し、全国34大学約450名が活動している。2013年には創立125年を祝った。

学Yの全国プログラムである夏期ゼミナールは、前身となる「夏季学校」から数える長い歴史を持つプログラムであり、今年も9月に東山荘で開催された。全国22大学から、学生やOBOGを含め

113人が参加し「Mission Impossible」をテーマに、貧困とジェンダーをキーワードに行われた。毎年学生たちの発想力、創造力の豊かさ、青年たちのみずみずしい成長にふれることができる。その他に「ミリアム」というジェンダー・セクシュアリティをテーマに考えるプログラムや、南インドを訪れるインドスタディキャンプなど、アジアや世界のYMCAとの連携の下、様々な海外ボランティア活動やプログラムが行われている。

学Yが大切にしていることに「聖書を読む／聖書研究会」がある。はじめて聖書にふれる学生と「いっしょに聖書を読む」「仲間とともに自分の頭と心で読む」「多様な聖書解釈の可能性を尊重する」などをふまえて各地域で行われている。これが学Y運動の精神的支柱であり、生活の現場で聖書を読むことの大切さを学んでいる。現代の学生たちが抱える様々な不安(お金・希望・仕事・生き方)を互いに分かち合う場でもある。森さんは、牧師の長女とし

て厳しく親に育てられ、進学した大学で学Yに出会ったそうだ。学Yの仲間たちと聖書を読むとき、教会で聖書を読むときは違う歯に衣着せぬ率直な意見や読み方に驚いたという。読み手自身の変化や場によって豊かな聖書解釈ができること、そうした場が「私が私らしくあるために必要だ」と感じたと語られた。学生時代には「The Personal is Political」(1960年代フェミニズム運動のスローガン)や、「コンシャスネス・レイジング」(会話と対話を中心としたグループ討論により意識変革を目指す手法)に出会

い、学Yの活動が「私個人の悩みは、誰かの悩みにつながる、社会の悩みや問題につながる」ことの実践であると気づいたという。

「2人または3人がわたしの名によって集まるところにはわたしもその中にいる」(マタイ18章20節)と言われるように、「誰かといっしょに」が大切であり、そこにイエスも共にいる。共にあること、互いに成長すること、それが他の人に大きな影響を与えることと信じている。学Y運

動の大切な根幹であると語られた。

このような問題提起を受け、参加者の大半を占める年配のメンバーからそれぞれの教会が直面している困難な問題や、「教会が何か決定的に欠けているものがある、福音派も含め全体として停滞している。日本の社会に問題提起ができていない」などの危機感が語られた。その中で、「学生は社会の中で居場所を求め、ボランティアなどなにか役に立つことを求めている。」教会はそうした若者のニーズにこたえているだろうかなど、率直な反省が語られ、充実した話し合いが行われた。

(文責武田)



関西セミナーハウス活動センター

●2015年度 開発教育セミナー 第4回
「歴史認識を鍛える」植民地、戦場の日本人

大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター所長 内海 愛子さん
2015年10月3日(土)〜4日(日)



今年には戦後70年にあたり、アジア太平洋戦争は何だったのか、多様な視点から見つめ直したいと、この回を企画した。講師の内海愛子さんのお話に加えて、馬町(京都市東山区)の空襲を語りつぐ会の石本喜代史さんから空襲体験を聞くフィールドワークや、元日本軍兵士の近藤一さんが高校生向けに話されたDVDも視聴した。

戦ったのか、「アジア解放」のスローガンは本当か、極東裁判では何が裁かれ、サンフランシスコ講和条約は何だったのか、日韓基本条約はどのような意味を持っていたのかなど、知っているつもりでいた歴史からも新たに学ぶことが多くあった。資料として配布された戦前の地図「大東亜共和圏」にある地域に対する日本の戦後補償は抜け落ちてきたし、ここで赤く着色された植民地にした地域には、特に歴史的な清算はできていないことを痛感した。戦後の賠償も経済協力方式をとり、日本企業の進出が経済的な侵略とみられたこともしかりだ。多くの日本人が、戦後も過去に向き合わず、ゆがみを持った歴史認識を再生産してきたことが、現状を生みだしてし

まった。
自分たちの歴史認識を鍛えるとともに、若い世代にいかにか伝えていくか、アジアを歩きながら、学生たちと向き合ってきた内海さんからのアドバイスは、私たちへの励ましにも聞こえた。



主のご降誕を

お祝い申し上げます。



今回で47回めとなる、金属労協労働リーダーシップコースが開催された。東は栃木、茨城、西は福岡から、39名(内女性2名)が参加し、寝食を共にして学び合った。2週の間、季節が大きく変化する時期だが、今回は体調を崩す人がなかったのは幸いであった。10日の特別講演には、村田製作所常任顧問の牧野孝次氏が招かれ、「経営と人間」と題して講演した。期間を通して、密度の濃い講義、5つのテーマに分かれたゼミナール、討論会、レポート作成、ゼミ発表を縦系に、交流会や、坐禅、鞍馬散策、茶室訪問などを横系に織り込むようにプログラムが組まれている。課題や展望を共有し、情報交換を重ね、時に、お酒を酌み交わし、連帯感を日に日に深め、再会を期して散会された。

●協力プログラム
金属労協

第47回労働リーダーシップコース

主催：全日本金属産業労働組合協議会(JCM)
2015年10月5日(金)〜17日(土)

プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**聖書講座 2015「新しい聖書の学び」**

「イエスの譬え話」に響く声(全10回)

講師：山口里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：◎2016年1月12日◎2016年2月9日、火曜18:30～20:00

会場：早稲田教会ロビー

参加費：1,200円/学生 500円

テキスト：『イエスの譬え話 1』

共催：早稲田奉仕園

■**関東フォーラム宗教対話 I**

「古典で読む 20 世紀 第II期」

第 5 回「E・フロム『自由からの逃走』」

日時：2016年1月22日(金) 18:30～20:30

講師：工藤宣延さん(明治学院大学講師)

会場：早稲田教会 1 階ロビー

参加費：500円

■**関東フォーラム宗教対話 III**

「これでいいのか日本のキリスト教」第3回

日時：2016年1月23日(土) 14:00～16:30

講師：野田沢さん(SCF 主事)

会場：早稲田教会 1 階ロビー

参加費：1000円、学生 500円

共催：早稲田奉仕園

■**第 7 回神学生交流プログラム**

主題：「今、旧約聖書の世界から考える」

講師：並木浩一さん(ICU 名誉教授)

校長：関田寛雄さん(日本基督教団神奈川教区巡回牧師)

日時：2016年3月7日(月)～9日(水)

会場：聖公会ナザレ修女会エビファニー館

対象：学校推薦を受けた神学生

◆**関西セミナーハウス 修学院きらら山荘**

■**月釜 清心会**

日時：2016年2月14日(日)

9:00～15:00 受付(1、8月を除く年 10 回)

於：関西セミナーハウス

年会費：5,000円、臨時会費 1,000円

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2015 年度修学院フォーラム**

「エネルギーを考える」第 4 回(「社会」第 1 回)

「核」の罫目からの解放に向けて」

講師：川上直哉さん(NPO 法人東北ヘルプ事務局長)

飯田哲也さん(認定 NPO 法人環境エネルギー政策研究所所長)

日時：2016年1月10日(日) 16:00～11日(月祝)16:00

会場：関西セミナーハウス

参加費：一般 14,000円、学生 5,000円(宿泊 3 食込)

■**2015 年度修学院フォーラム「社会」第 2 回「キリスト教徒の良心と現実の政治の間で」**

講師：佐藤優さん(作家・元外務省主任分析官)

日時：2016年1月30日(土) 13:30～17:30

会場：関西セミナーハウス

参加費：一般 3,000円、学生 1,000円

ロビーの作品を架け替えました。
— 関西セミナーハウス

今年寄贈された「竹中正夫コレクション」の中から、聖書の物語を描いた「ろうけつ染め」作品を展示しました。インドのソロモン・ラジ(P.Solomon Raj)の作品です。どうぞ見いらしてください。



財団本部

<http://www.academy-nippon.com>

関東活動センター

<http://www.academy-tokyo.com>

関西セミナーハウス

<http://www.kansai-seminarhouse.com/>

関西セミナーハウス活動センター

<http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 小久保 正

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館 6 F
TEL 03-3207-6198
E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /

関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115
E-mail:info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org

賛助会費・寄付金報告

2015 年 10 月 1 日～2015 年 10 月 31 日
(順不同・敬称略)

◆**財団本部**

寄付金

シュベネマン クラウス 50,000

◆**関東活動センター**

賛助会費

伊藤 博子 5,000

神学生交流プログラム寄付金

松原 千里 2,000

農村伝道神学校 30,000

◆**関西セミナーハウス**

寄付金

牛尾 宣夫 10,000

武藤 高司 15,000

◆**関西セミナーハウス活動センター**

賛助会費

網野 俊賢 10,000

大島 順子 5,000

中上 卯一郎 5,000

井上 勇一 5,000

田中 常雄 5,000

寄付金(エネルギープログラムなどへの寄付金を含む)

根岸 宏邦 10,000

シュベネマン クラウス 50,000

松田 光代 10,000

小久保 正 100,000

大島 順子 5,000

早川 良彌 10,000

善本 美都子 8,000

井上 勇一 5,000

もみじまつり寄付金

芝原 緋佐子 3,000

横野 朝彦 10,000

八田 一郎 4,000

佐藤 厚子 3,000

(株)柴橋商会 10,000

(株)こころ 10,000

八田 尚嘉 5,000

中村 宗恭 10,000

シュベネマン クラウス 20,000

大野 邦久 3,500

白子 宗令 6,000

安住 宗住 6,000

林 宗一郎 5,000

松本 圭子 5,000

デロイトトーマツ税理士法人

京都事務所 20,000

浅田 涼子 6,000

三原工務店 北迫巴智夫 30,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。